

申請者:岡野 衛士

論文題目 インフレーターゲティング: ニューケインジアンオープンエコノミーマクロ経済学の視点

審査員 金江廣志
清水啓典
小西 大

本論文はニューケインジアン・オープンエコノミー・マクロ経済学を用いて、1990年代以降先進工業国を中心に採用している新しい金融政策レジームたるインフレ・ターゲティングを理論的、実証的に分析する。まず先行研究との関連を明らかにした上で、インフレと産出のトレードオフの解消の観点から、生産活動が中間投入財にも依存する小国開放経済、市場別価格設定行動が存在する2国経済、貿易収支が一時的に不均衡に陥る可能性を持つ小国開放経済のそれぞれがターゲットとして選択すべきインフレ率を理論的に論じ、最後にインフレ・ターゲティングがインフレと産出のトレードオフの解消を通じて社会厚生を改善することを英国のデータを用いて実証的に示している。

本論文の評価できる点として、第1に、ニューケインジアン・オープンエコノミー・マクロ経済学にキャッシュレス・エコノミーの仮定を導入したモデルを用いることにより、金利を政策変数とする開放経済における金融政策の分析を可能にしたこと、第2は国際金融論とマクロ経済学のトピックを組み合わせることで、先行研究が導き得なかった政策的含意を導いたこと、の2点が挙げられる。

本論文の問題点としては、理論分析において、ミクロ経済学的に裏付けられているモデルを用いながら明示的な厚生分析が行われていないなど現実へのインプリケーションの導出が不完全であること、実証分析においては過小なサンプルを使うなど統計的に信頼できる結果が導出できているとはいえないこと、の2点が挙げられる。

以上のような問題を残すものの本論文は査読付き雑誌に掲載のものを含んでおり、総合的に学位授与に足りる水準に達していると認められる。よって審査員一同は所定の試験結果を合わせ考慮して、本論文の筆者が一橋大学学位規則第5条第1項の規定により一橋大学博士(商学)の学位を受けるに値するものと判断する。